

出題分析			
試験時間	60分	配点	100点
		大問数	1題
分量 (昨年比較)	[減少 同程度 増加]	難易度変化 (昨年比較)	[易化 同程度 難化]
<p><b>【概評】</b></p> <p>出題内容は、治安に関する世論調査と防犯カメラの高度化を踏まえた2つの対立する意見を讀んで、自分の考えを論じるというもの。800字以内という制限字数は昨年と同じだが、昨年は法や正義といった抽象的なテーマが問題として出題され、それを自分なりに具体的な次元に落とし込んで論じる必要があったのに対し、今年からはじめから具体的なテーマ(防犯カメラの設置の是非)が示されているため、昨年よりも取り組みやすくなった。ただし、2つの対立する意見はいずれも一定の説得力があるため、賛同した意見の単なる繰り返しにならないように注意する必要がある。また、防犯カメラの議論だけに終始せず、「より自由で安全な社会のあり方」に関する自分のなりの考えを示す必要があることを忘れないようにしたい。</p>			

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
一	意見論述問題 (800字以内)	<p>「市民生活における安全・安心とプライバシー」というテーマで討論会を行っているという設定で、示された2つの意見(意見1、意見2)を踏まえて「より自由で安全な社会のあり方」について論じる問題。ここから分かるように、本問は必ずしも意見1と意見2のどちらに賛成かを問うているわけではなく、2つの意見が依拠している「自由で安全な社会」の考え方の違いを踏まえて、自分なりの「自由で安全な社会」のあり方を示すことが求められている。意見1は安全が確保されてこそその自由であると考え、防犯カメラの設置に積極的な立場。他方、監視は萎縮効果を生み、行動や信条の自由を奪うと考え、防犯カメラの設置に慎重であるべきと考えるのが意見2である。もちろん、第三の道を示すのは時間的に厳しいので、基本的にはどちらかの意見に寄り添いながら、それをより発展させたり、欠点を補ったりしながら何かしらのオリジナリティをつけ加えるのが得策だろう。いずれにしても、2つの意見の両方を踏まえることが設問条件なので、自分の立場からの一方的な見解にならないよう注意する必要がある。</p>	標準

#### 合格のための学習法

2025年度から始まった慶應義塾大学法学部「小論文」の出題範囲は、「国家や社会の基本原則を中心とした諸問題について、高校卒業程度の知識を前提に、理解力、分析力、思考力、表現力を問い、論述形式で解答させる。資料やキー・ワードを与える場合がある。」(HPより)となっている。「国家や社会の基本原則を中心とした諸問題」とあることから、日頃から正義や人権、自由、平等、民主主義といった法学・政治学の基本的なテーマについて考える習慣をつけておくことが大切だ。問題の傾向としては、あるテーマに関して複数の立場から考えさせる問題が2年連続で出題されており、それを60分間という制限時間のなかで800字以内のまとまった文章に仕上げるには相当な訓練が必要となる。そのため、類似の出題形式を探して数多く演習にあたり、60分で800字を書く感覚を養っておこう。